

『生物の科学 遺伝』Vol.72 No.3 (2018年5月発行号) p.214～220の特集「宝石サンゴ研究の最前線」総論で、データ提供者の要望により以下の訂正があります。図の差し替えおよび本文の修正をお願いいたします。読者ならびに関係者の皆様に謹んでお詫び申し上げます。

214ページ左8行目～11行目：2014年には2005年の7.7倍である約137万円/kgを記録した。【以下、11行目まで削除】

217ページ左15行目：近年の年間平均取扱量は3.6 t(2010～2011年)であり、漁獲量の記録がある明治時代と比較すると5分の1(1899～1920年の平均は17.5 t)に減少している。

217ページ左20行目：1989年から2011年までの年間入札取扱量に占める3種合計(アカサンゴ、モモイロサンゴ、シロサンゴ)の枯れの割合は、平均88.9%であった。特に、アカサンゴの枯れは年間入札取扱量の平均68.1%を占めており、

217ページ右15行目～19行目：削除

217ページ右19行目～218ページ左2行目：宝石サンゴの高騰時(2010～2011年)とその前(2005～2009年)で入札取扱量を比較すると、アカサンゴ、シロサンゴは高騰時はその前に比べて多い(図3)。特に、シロサンゴでは生木の年平均取扱量が、高騰前には9.0 kgであったものが、高騰時に228.3 kgと増加した。これは、高騰により資源への漁獲圧が増大していると考えられる。

218ページ右3行目：2011年の期間では年間入札取扱量の1割である。また、その期間の生木の年平均取扱量は4.5 kgと少なく、その割合は平均1.9%と低い。

なお、当該論文は、執筆者の許諾のもと、PDFでダウンロードいただけます。以下のサイトからダウンロードください(データのコピー、プリントはできません)。
http://www.nts-book.net/nts-books/pdf/No.03_P214-220-n.pdf

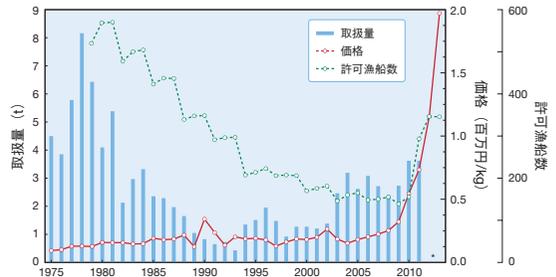


図1 高知産宝石サンゴ入札取扱量と平均単価、高知県における珊瑚漁許可漁船数

*2012～13年は、データなし

[データ提供：宿毛珊瑚協同組合、高知県水産振興部。データ参照：山本(2013)]

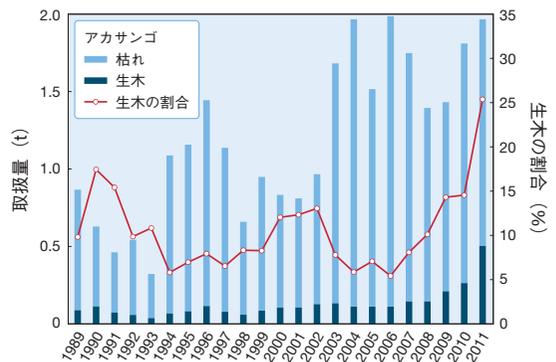


図2 高知産アカサンゴ入札取扱量に占める生木と枯れの割合

[データ：庄境(2013)]

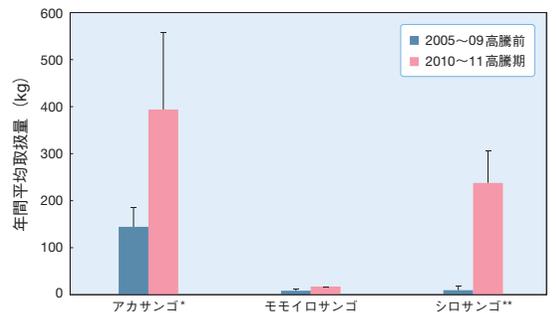


図3 宝石サンゴ高騰期前後における高知産生木の入札取扱量

* $P < 0.05$, ** $P < 0.001$, t検定

[データ：庄境(2013)]